

画廊きらら 展示作品案内

画廊きららでは、糸魚川市が所蔵している美術品を展示しています。
現在、展示中の作品をご紹介します。

「E N」(個人蔵・借用作品) カテイトエ 糸魚川市根知に在住歴がある梅津諭、和枝夫妻によるユニット作品。 フランス 2017 サロン・デ・ボ・ザール展審査員賞受賞。同展イラスト部門テーマ「city」に沿い、人々の縁と博愛、平和の願いを描いた。	「菩薩」 小倉遊亀 滋賀県出身の日本画家。1938年に旧青海町(現糸魚川市)出身の小倉鐵樹と結婚し、のちに名誉町民となる。1980年文化勲章受章。本作は72歳の作で、柔らかな線と淡い色彩によって、柔和な菩薩が描かれている。	「ポーズ」「若い女」 北村正信 市振出身の彫刻家。北村四海の養子となり正信を襲名し、四海とともに大理石彫刻の第一人者と称された。本品は東京国立近代美術の収蔵品(1951年第7回日展の出品作)と同タイトル。
「自画像」 棟方志巧 青森出身の版画家。本作は昭和49年、市振海岸でスケッチをしていたところ当時の校長に求められて描かれた筆画。「市振小学校に寄って1974.5.27 法眼 棟方志功」と書かれている。	「三番叟」 鈴木信太郎 洋画家。黒田清輝に師事。はじめ二科会に所属したが脱会して一陽会を結成。武蔵野美術大、多摩美術大の教授を歴任した。文化功労者。	「翡翠の郷」 石原 進 日本画家、日展会員。本作品は第9回日展(2022)の出品作。市役所ホールには第10回日展出品作の「天の響き」がある。いずれも作者がヒスイ、ヌナカワヒメに魅せられ描いたもの。
「晩秋の明星」 原本賢治 上越市出身で上越市美術展覧会を創設した油彩画家。日展や東光展に入賞歴あり。上越美術界に貢献した。	「氷川丸」 岩瀬誠一 東京藝術大学卒。爽蒼美術協会副会長。水彩画家。横浜市で博物館船として公開されている日本郵船の氷川丸を描いている。右の塔は横浜マリントワー。	「朝のポーズ」 藤巻邦彦 彫刻家として糸魚川地域、青海地域で木彫教室を主宰し、数多くの作品を手がけた。本作品は、片膝立ちの女性が眩しそうに顔を上げており、清々しい朝日がそこに射し込んでいるよう。

しょう き おに めん 「鍾 馗と鬼の面」 かな ぎ 旧金城町 島根県旧金城町は現在の浜田市で、相馬御風の師である島村抱月の出身地。 いわ み 石見神楽が盛んで、鍾馗は演目の一つ。「カチューシャの唄 知音都市交流」(糸魚川・浜田・長野・中野)の縁で受贈。	じゅえき 「樹液」 「樹液-7」 ふじまきくにひこ 藤巻邦彦 2点の木彫作品。どろりと垂れる樹液が植物の生命力を感じさせる。	ひょうばく 「氷爆」 し みずじゅうぞう 清水重蔵 豊栄市出身の写真家で、同市博物館長も務めた。糸魚川市美術展覧会(市展)写真部門の審査員。本作はその縁で受贈した作品。
ノース ヘッド 「NORAH HEAD」 ケン ダンカン KEN DUNCAN オーストラリアの写真家。パノラマ風景作品で名声を博した。本作はシドニー・ハーバー国立公園のノース・ヘッドからの遠望。	はだか せいねんぞう 「裸の青年像」 ふじまきくにひこ 藤巻邦彦 若々しい肉体と、首を突出し好奇心あふれるような表情が、青年らしさを表す。	こいぬ 「子犬」 たかい すすむ 高井 進 妙高市出身、在住の陶芸家。本作は、縁のあった汐路保育園に贈られたもの。 子犬が戯れる様子を鮮やかに描いた。
かつこう いと ひび 「赫光 愛ほしき日々」 たかい すすむ 高井 進 妙高市出身、在住の陶芸家。本作は、縁のあった汐路保育園に贈られたもの。 生命力を象徴する光と、仲睦まじい犬の親子が印象的。	まがたま も いと い がわ おんな 「勾玉を持つ糸魚川の女」 いし だ かず ま 石田一馬 糸魚川市在住の彫刻家。 糸魚川のシンボルでもあるヒスイの勾玉を掲げ持つ若い女性。凛とした女性の表情が印象的。	のうがく こ か じ 「能楽 小鍛冶」 かわ い しゅうほう 川合秀峯 糸魚川市の日本画家。石川有隣に師事した。 本作は能の演目「小鍛冶」のワンシーンで、稻荷明神のご神体が狐の精霊の姿で現れ、刀匠の相槌を打つ場面。
おや こ じ し 「親子獅子」 いそがい みのもる 磯貝 稔 糸魚川市の画家。長く小学校の教職にあり、退職後から精力的に絵を描き始めた。市内学校に多く作品が残る。 本作は歌舞伎の演目「連獅子」の親獅子を描いたもの。	場内の作品には手を触れないでください。 ————— 画廊きらら 青海総合文化会館 きららカルチャースペース2階 開館時間 9:00～17:00 ※月曜休館 入場無料 入場の際は受付にお声掛けください。	